

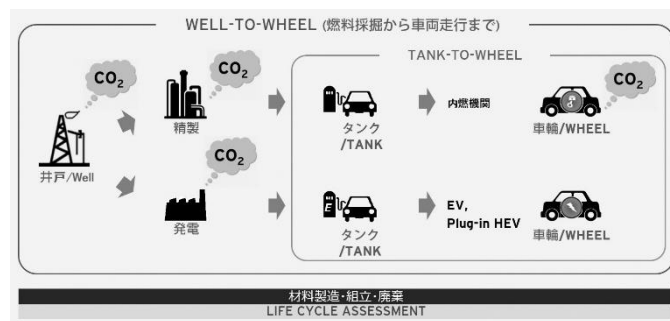
2018年8月8日

マツダ、サウジアラムコ社および産総研との共同研究開始を発表

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、サウジアラムコ社(Saudi Aramco)および国立研究開発法人産業技術総合研究所(以下、産総研)と、内燃機関の効率化とCO₂排出量低減の有効性の検証に関する共同研究を開始すると発表しました。この研究では、サウジアラムコ社が燃料採掘から精製過程でより低CO₂排出となる燃料を開発し、マツダと産総研はその燃料を使用する高効率なエンジンに関する研究開発を行います。この取り組みにより、燃料採掘から車両走行までを通した Well-to-Wheel 視点での効果的なCO₂低減技術の開発などの成果が期待できます。

研究テーマ: 「低CO₂燃料の開発および当燃料を使用する内燃機関の研究」

実施体制: サウジアラムコ社、産総研、マツダ



Well-to-Wheel と Tank-to-Wheel

マツダは、2017年8月に発表した「サステナブル“Zoom-Zoom”宣言 2030」に基づき、燃費の良い(CO₂排出量の少ない)Tank-to-Wheel視点による内燃機関やクルマを開発するのみならず、燃料採掘から車両走行まで視野に入れた Well-to-Wheel 視点での総CO₂排出量に着目し、地球環境負荷軽減に努めています。この研究を通じ、これまで取り組みを続けてきた低CO₂排出技術をさらに追究し、「すぐれた環境安全性能」と「走る喜び」を両立したクルマをグローバルに広く提供し、さらなる省資源化や地球環境保護への貢献をめざします。

以上

【ご参考】

■サウジアラムコ社

<http://www.saudiaramco.com/en/home.html>

■産総研

<http://www.aist.go.jp/>

■マツダの「環境への取り組み」

<http://www.mazda.com/ja/csr/environment/>